

掲載号	9 月 2 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	上席研究員 大木 浩
題名	ハウレンソウ 業務用に適する品種と栽培法	
備考	【図1】春どり栽培における換気法と収量	

【本文】

近年、ハウレンソウは業務用需要が高まっており、県内でもレストランやコンビニなどの実需者向けに契約栽培が始まっています。業務用では一般消費用より収量性を重視することから草丈30～40cmと大きいサイズで収穫します。そのため、普通サイズの草丈25cmで収穫する際には問題とならないチップバーン(カルシウム欠乏による新葉の縮れ)や抽台などの障害が発生することがあるので、これらが起こりにくい品種を選択することが重要です。

作型別に紹介すると、秋どり栽培には「マーメイド7」や「ミスラル」、冬どり栽培には「スcoop」、「トラッド」、「ミストラル」、春どり栽培には「トラッド」、「プライド」、「パスワード7」、初夏どり栽培には「プリウス」や「晩抽サンホープ」が適します。

業務用栽培では、播種時の株間はやや広めにとり、高温期(初夏どり、秋どり)で8cm、低温期(冬～春どり)で6cm程度とします。

一般消費用より収穫を1週間～1か月程度遅らせて行いますが、あまり大きくすると可販率が低下するので、草丈30～35cmを目安に収穫します。

厳寒期(12月～2月)の換気法としては、日中の8～17時にハウスを密閉し、夜間に除湿を目的として換気を行う日中密閉法で管理することによって、病害の発生を抑えた上で、収穫時期を早めることが可能です(図1)。ただし、収穫間際までこの換気法を続けると、葉が柔らかくなり収穫しにくくなるので、草丈が25～30cmになったら日中開放法などの一般的な換気法に変えます。

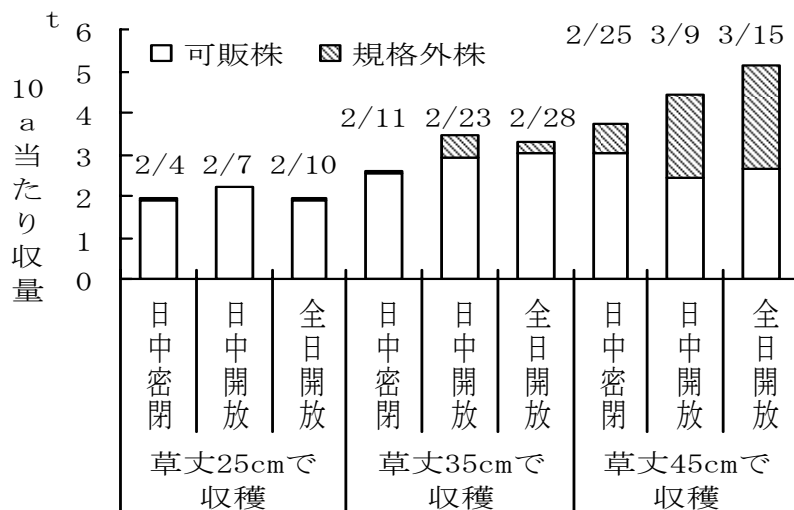


図1 春どり栽培における換気法と収量

注1)数字は収穫月日

2)平成20年11月19日播種